

mitsubishi

三菱自然冷媒ヒートポンプ式電気給湯機



時間帯別電灯通電制御型

- この製品は、「時間帯別電灯」契約専用です。

SRT-HP372CF

仕様書

仕様表

形名	セット	SRT-HP372CF
	ヒートポンプユニット	SRT-HPU452
	貯湯タンクユニット	SRT-HPT372CF
適用電力制度	季節別時間帯別電灯、時間帯別電灯対応通電制御型	
種類（設置場所）	屋外型（貯湯タンクユニットのみ屋内設置可）	
タンク容量	0.37m ³ (370L)	
定格電圧・周波数	単相 200V、50/60Hz	
ヒートポンプユニット	定格加熱能力※2※3	4.5kW
	定格消費電力※3	1.14kW
	夏期加熱能力/消費電力※2※4	4.5kW/1.02kW
	冬期加熱能力/消費電力※2※5	4.5kW/1.25kW
	冬期高温加熱能力/消費電力※1※2※6	4.5kW/1.54kW
凍結防止ヒーター	24W (3℃ ON、7℃ OFF)	
最大電流	16A	
沸き上げ温度	約75℃～約90℃	
寸法	ヒートポンプユニット	高さ 640mm × 幅 820(+80 [※])mm × 奥行き 300mm ※配管カバー寸法
	貯湯タンクユニット	高さ 1900mm × 幅 630mm × 奥行き 730mm
質量	ヒートポンプユニット	約59Kg
	貯湯タンクユニット	約80kg (満水時約450kg)
運転音※7	39dB	
最大使用圧力	190kPa (逃し弁設定値)	
冷媒名（封入量）	CO ₂ (0.77kg)	
安全装置	漏電遮断器、温度過昇防止器、缶体保護弁	
リモコン（別売）	台所リモコン	RMC-HP2KDまたはRMC-HP2K (外形寸法：縦 132mm 横 140mm 厚さ 22mm)
	浴室リモコン	RMC-HP2BDまたはRMC-HP2B (外形寸法：縦 105mm 横 210mm 厚さ 25mm)
高温水遮断形浴槽アダプター (別売)	GT-E76 (ストレート型)、GT-E78 (L型)	

- ※1 低外気温時は除霜のため、加熱能力が低下することがあります。
- ※2 沸き上げ終了直前では加熱能力が低下する場合があります。
- ※3 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)16℃/12℃、水温17℃、沸き上げ温度65℃
- ※4 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)25℃/21℃、水温24℃、沸き上げ温度65℃
- ※5 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)7℃/4℃、水温9℃、沸き上げ温度65℃
- ※6 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度90℃
- ※7 定格条件下での測定 (JISのルームエアコンディショナに準じ測定)

※3、4、5、6、7について

- 外気温:理科年表、月別平均気温・湿度 (1961年から1990年までの平均値)
- 水温:(社)ソーラーシステム振興協会「ソーラーシステムの設計基準に関する調査研究」(昭和57年9月)
- いずれも東京・大阪の季節別環境条件です。

仕様表

T0308201C

別売部品

部 品 名	形 名
デラックスリモコン	RMC-HP2KD (台所リモコン) + RMC-HP2BD (浴室リモコン)
スタンダードリモコン	RMC-HP2K (台所リモコン) + RMC-HP2B (浴室リモコン)
リモコンケーブル	LM-620 (20m)、LM-650 (50m)、無極性、2芯
高温水遮断形浴槽アダプター	GT-E76 (ストレート型)、GT-E78 (L型)
ヒートポンプA配管用止水栓	GT-100
脚 部 カ バ ー	GT-E370A (正面設置用)、GT-E370B (横向き設置用)
ア ー ス 棒	GT-30B
防 雪 カ バ ー	GT-121
風 向 ガ イ ド	GT-130
ア ン カ ー ボ ル ト	GZ-B1 (M12、30本入り)、GZ-B2 (M10、50本入り)

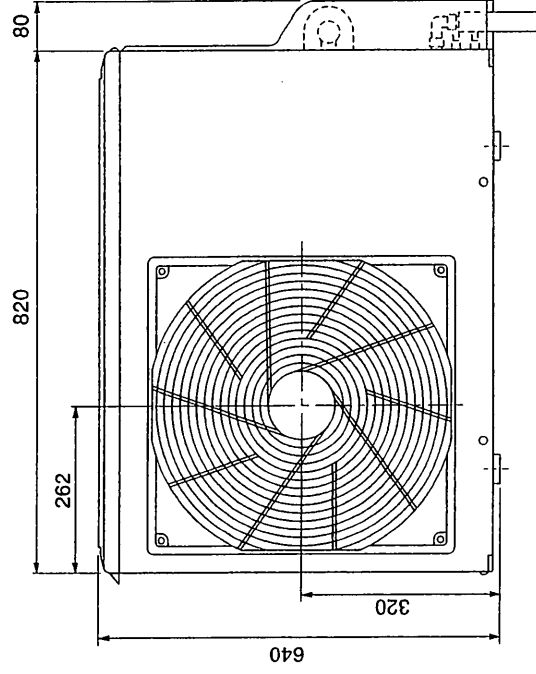
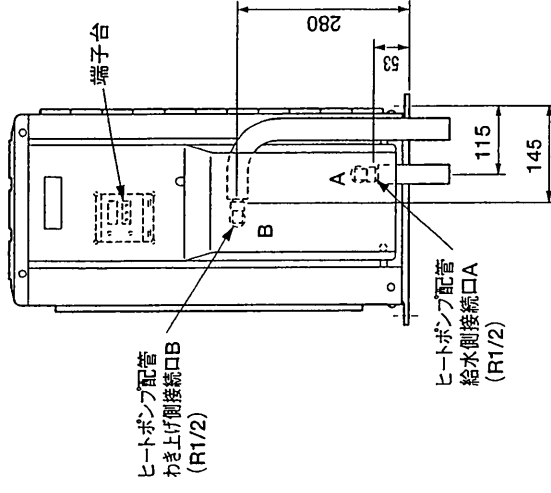
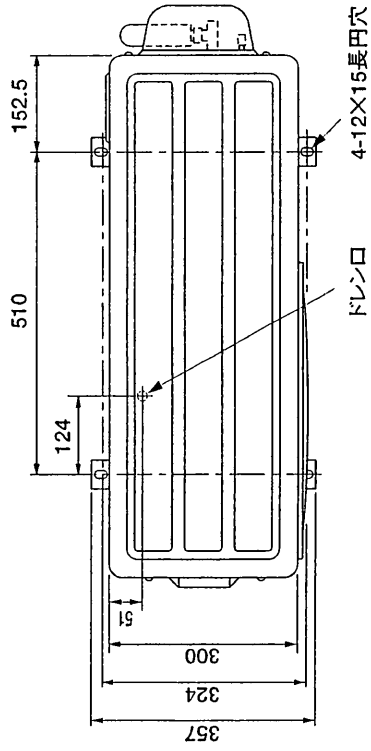
設置に必要な部品 (市販品)

部 品 名	仕 様 等
ヒートポンプユニット用簡易基礎	許容荷重:400N (40kgf) 以上、奥行き 700mm以上
凍 結 防 止 ヒ ー タ ー	推奨品:東京特殊電線 NFオートヒーター
ヒートポンプ電源通信線	φ2.0、VVF線 (3芯・単線)
配 線 用 P F 管	電源線用・ヒートポンプ電源通信線用:φ22、リモコン線用:φ16
ヒートポンプユニット用ドレンホース	φ16 (エアコン用)
水抜き栓 (給水・給湯配管用)	不凍結水栓等の水抜き栓、またはY形ストレーナー等水抜きができる手段

仕様表	
T0308202C	/

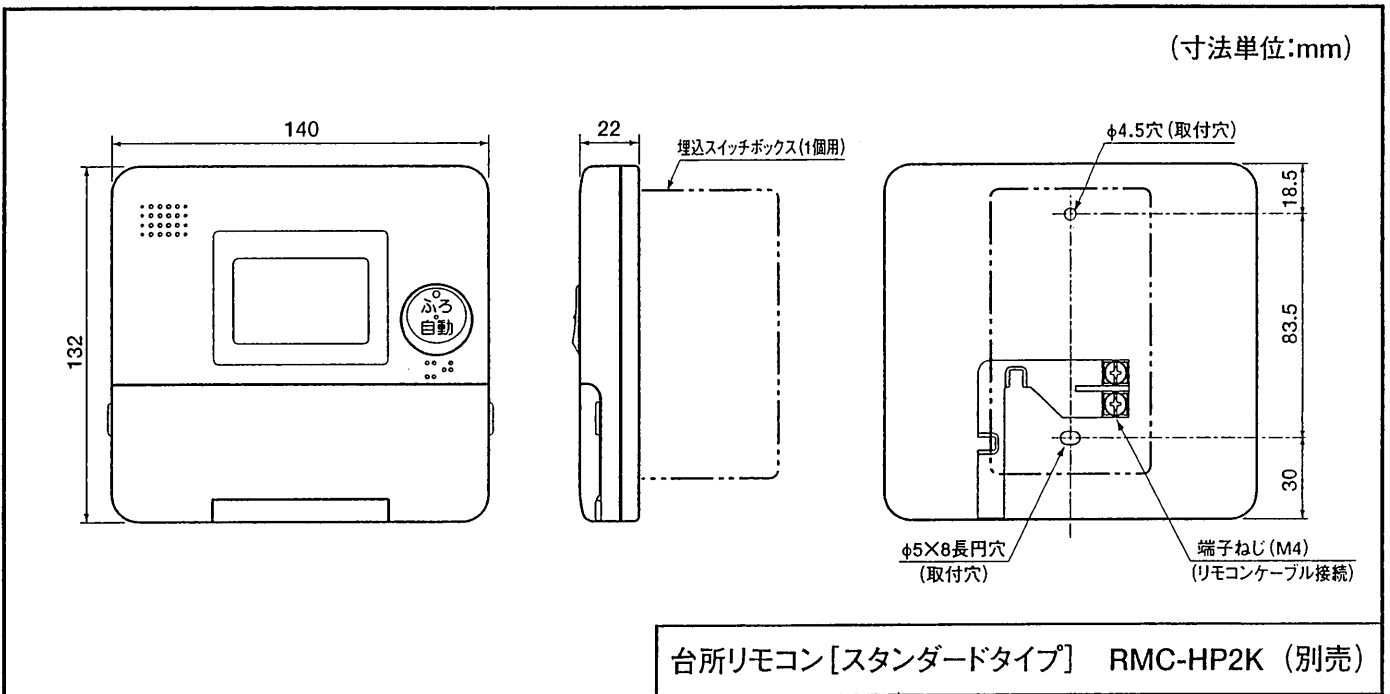
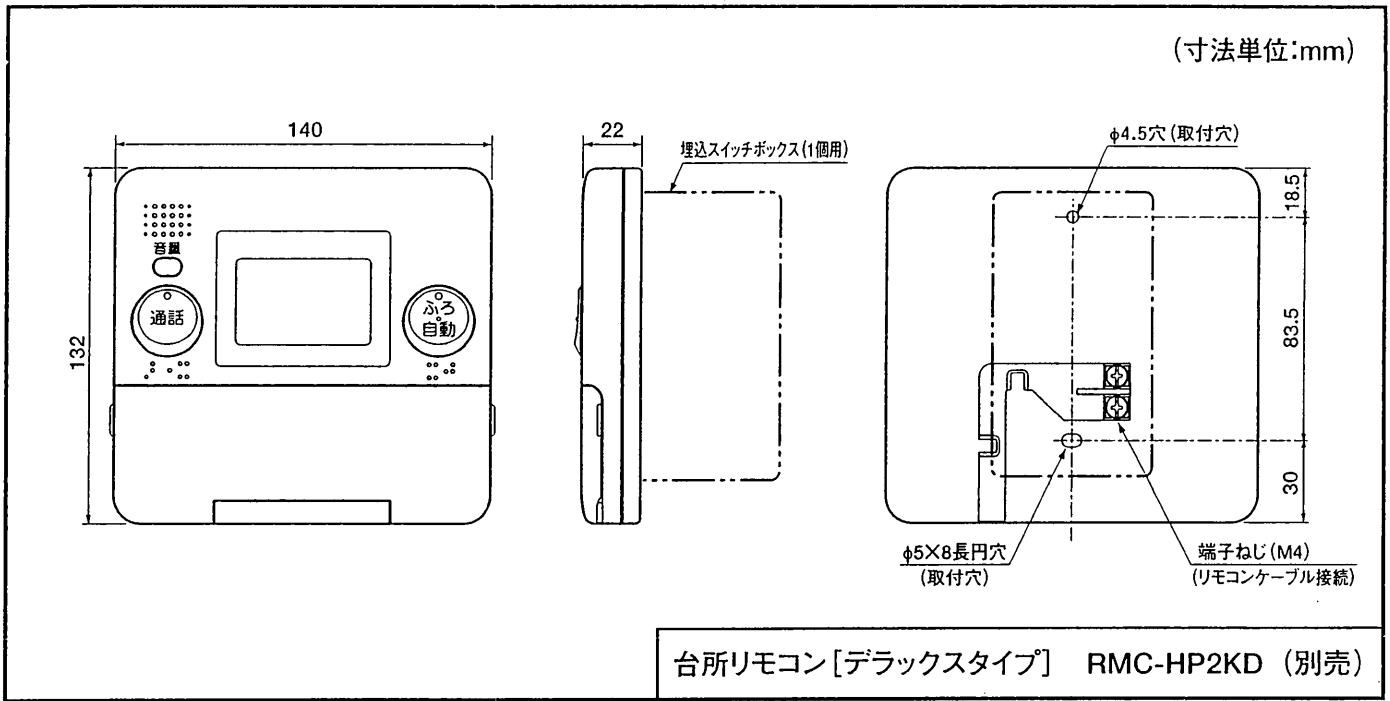
外形寸法図 (寸法単位:mm)

ヒートポンプユニット

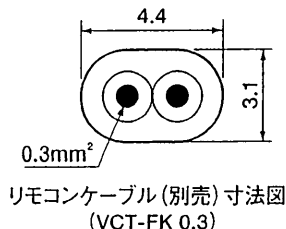


外形寸法図

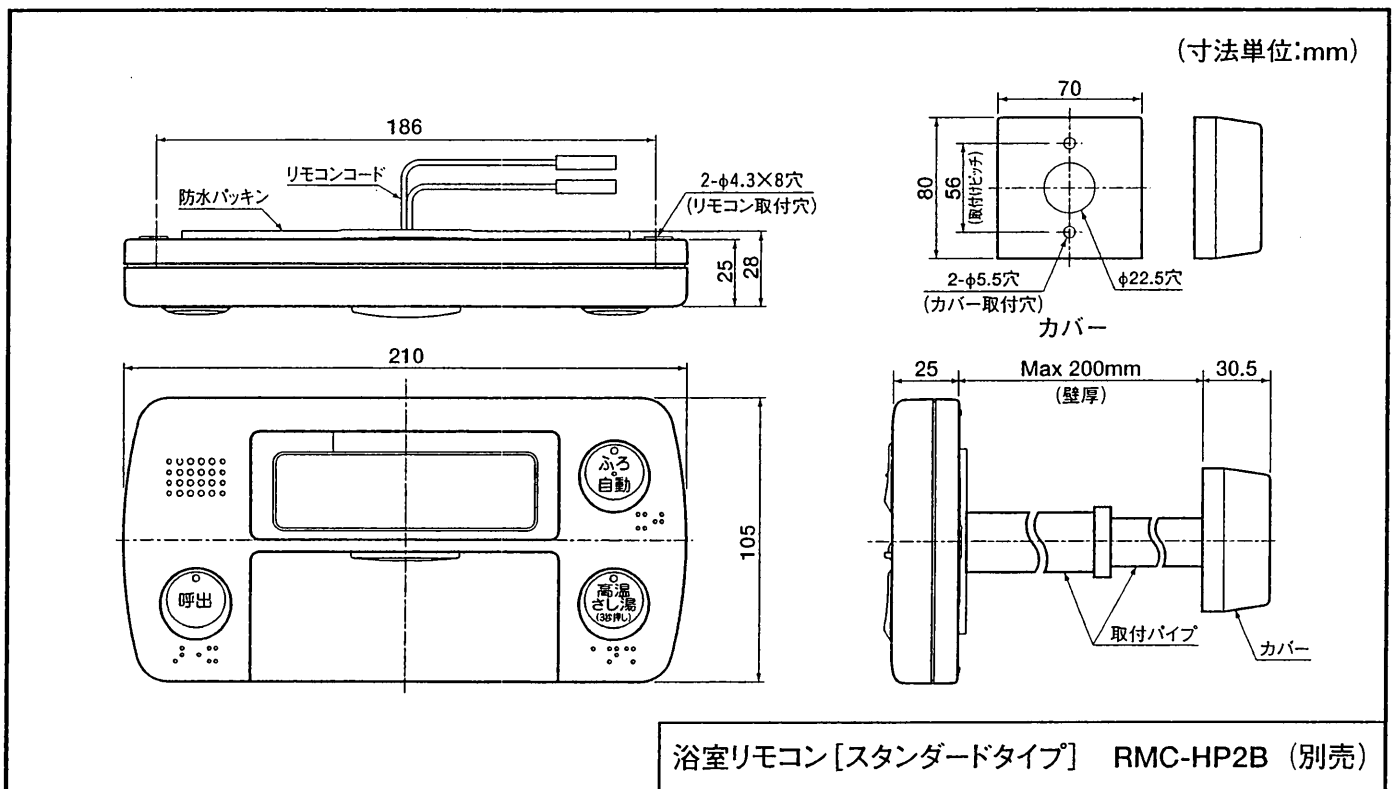
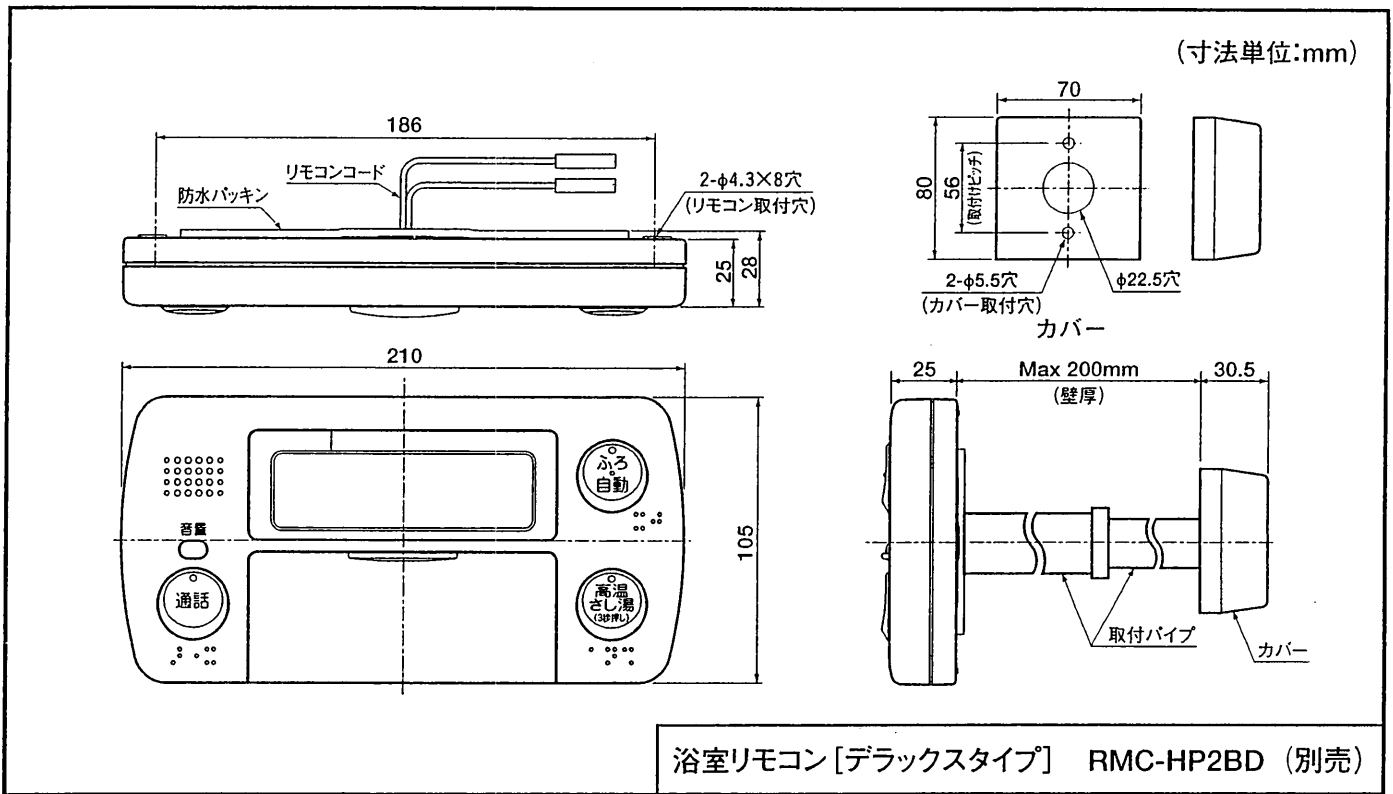
T0308204C



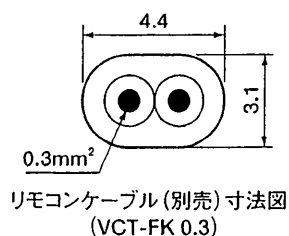
- RMC-HP2KD [デラックスタイプ]、RMC-HP2K [スタンダードタイプ] のいずれかを選択してご使用ください。
- このリモコンは防水タイプではありません。
屋外や浴室などの湿気の多いところ、蒸気や水しぶきがかかるところには取付けないでください。
- 下記の場所には取付けないでください。
 - ・直射日光のあたるところ
 - ・ガステーブルなどの高温 (50℃以上) になるところ
- リモコンは JIS C 8336 または 8435 の埋込用スイッチボックス (1個用)、または壁に直に取付けます。
- 設置条件によって別売のリモコンケーブル LM-620 (20m)、LM-650 (50m) をお使いください。
- 台所リモコンとリモコンケーブルの接続はリモコンケーブルに Y 型端子を圧着して接続します。



台所リモコン (別売)	
T0308205C	/



- RMC-HP2BD [デラックスタイプ]、RMC-HP2B [スタンダードタイプ] のいずれかを選択してご使用ください。
- リモコンの取付けは標準の場合と壁内配線の場合で使用する部品が異なります。
標準の場合…取付パイプ、カバー、パッキン
壁内配線の場合…木ねじなど
- 設置条件によって別売のリモコンケーブル LM-620 (20m)、LM-650 (50m) をお使いください。
- リモコンケーブルとリモコンコードを接続端子で接続します。



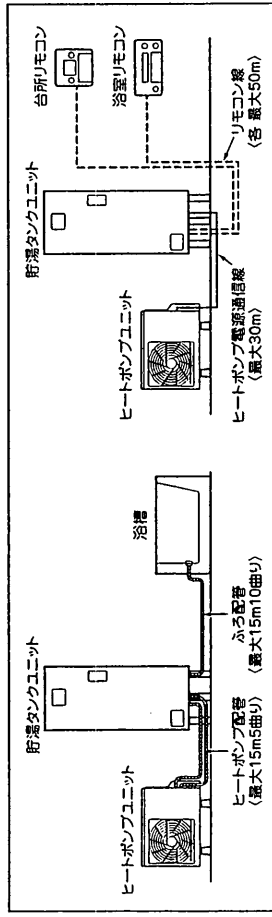
浴室リモコン (別売)	
T0308206C	/

据付工事-1

据付場所の選定

(ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニット共通項目)

- 冬季の最低気温がマイナス10℃を下回る地域では使用できません。
- 短雪地や温泉地帯など特殊な場所では機器が故障する恐れがありますので据え付けないでください。
- 機器と建物とのすき間寸法については、各都市の火災予防条例に従ってください。
- ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニットは機器の性能や保守点検のため「据付場所の制約」のスペースを確保してください。
- 配管に関する「据付場所の制約」を守ってください。
- 配管による放熱ロスを少なくするため、できるだけ給湯場所に近い所へ据え付けてください。
- 雨や雪が降ったとき、水たまりができて水につかるような所には絶対据え付けないでください。
- 以下の配管・電線は、長さに制約がありますので、最短となるように施工してください。



(ヒートポンプユニット)

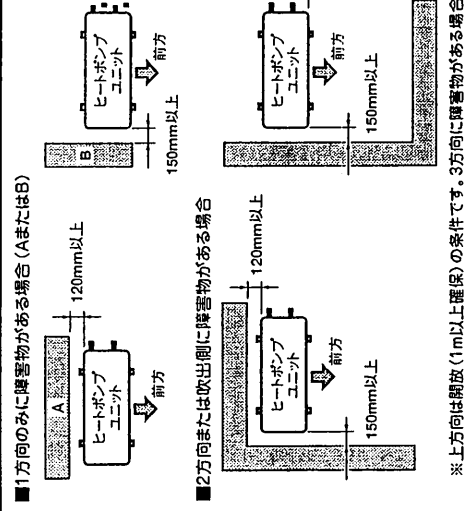
- ヒートポンプユニットは屋内に据え付けないでください。
- ヒートポンプユニットは通気性の良い場所に据え付けてください。
- ヒートポンプユニットはわき上げ中および凍結防止運転中に運転音、振動が発生します。据付場所の状態、運転音は大きくなります。また、わき上げ中は冷風がでますので、居室の近くやご近所の迷惑になる場所への据え付けは避けてください。また、各地区の騒音規制等に関する条例に従って設置してください。
- ヒートポンプユニットは強風に当たらない場所を選定してください。(風が当たると除霜時間が長くなります。)
- 積雪地区へ据え付ける場合は、ヒートポンプユニットは雪台の上に据え付けるなど、降雪・除雪による雪が空気吸込口・吹出口に入らないよう、防雪カバー(当社純正別売部品)を据付位置に固定する前に取り付けてください。
- ヒートポンプユニットはテレビ、ラジオのアンテナより3m以上離してください。
- (テレビ・ラジオに映像のみたれや雑音が生ずることがあります。)
- わき上げ時、結露した水がヒートポンプユニットのトレントレ口から排水されますので、排水ができる場所に据え付けてください。
- ヒートポンプユニットから出る風が気になる場合は、風向ガイド(当社純正別売部品)を取り付けてください。(風は上向きに出ます。)

(貯湯タンクユニット)

- 貯湯タンクユニットを屋内に据え付ける場合は、屋外に据え付ける場合の注意に加え、特に下記を厳守してください。
- 通気口を設け、密閉室にしないでください。
- 床面の防水・排水工事を確守に行ってください。
- 浴室など湿気の多い所には据え付けないでください。
- 積雪地域で貯湯タンクユニットを屋外に据え付ける場合は、小屋がけをして雪が掛かるのを防いでください。
- 貯湯タンクユニット設置階の上の階に結露するときは、貯湯タンクユニット設置階の給湯回路に流量絞り弁を取り付けて、階高さ違いによる流量バランスの調節をしてください。

据付場所の制約

ヒートポンプユニット単体の据付制約(上から見た図)

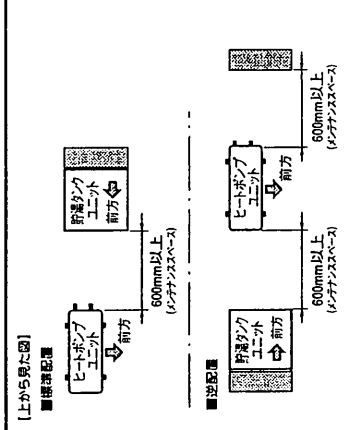


※上方方向は開放(1m以上確保)の条件です。3方向に障害物がある場合は設置不可です。

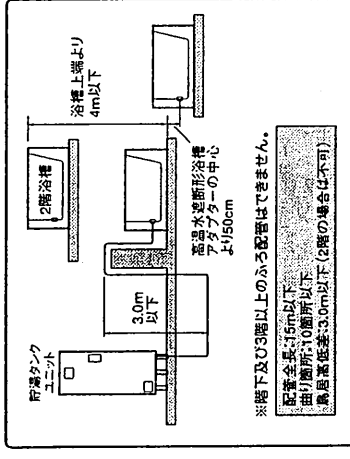
【お願い】

- 据付位置に固定する前に防雪カバーを取り付けてください。(固定後では障害物等により取り付けしにくくなります。)

ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニット間の据付制約



貯湯タンクユニットと浴槽間の据付制約(横から見た図)



- ※階下及び3階以上のふる配置はできません。
- ※設置全高:1.5m以下
- ※掘り箇所:1.0箇所以下
- ※掘り箇所深さ:3.0m以下(2階の場合は不可)

警告

- ヒートポンプユニットは屋内に設置しない
- 万一冷媒が漏れると、酸素不足の原因になります。
- ガス類や引火物の近くには据え付けない
- 発火・火災になることがあります。

据付工事-1

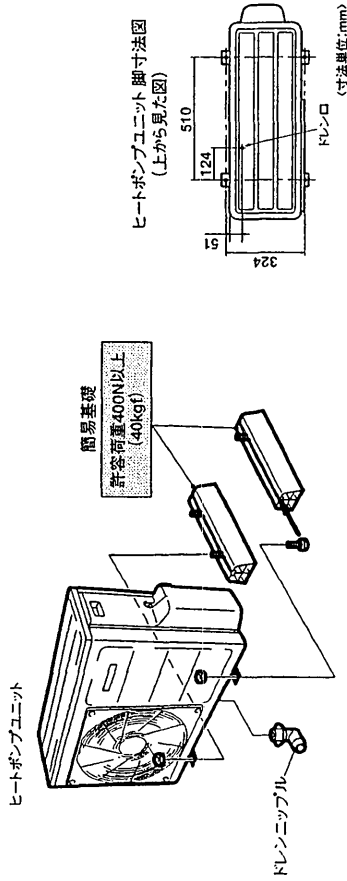
T0308207C

据付工事-2

ヒートポンプユニットの据付

- ドレンニップルをヒートポンプユニットの下穴に取り付けてください。
 - 市販のドレンホース(φ16)をニップルに取り付け、ドレンを排水できる位置へ導いてください。
- 簡易基礎(市販品)を使用して屋外、床置きにて、水平に据え付けてください。
- 積雪地域では、置台の上に設置するなど、雪が空気を吸込口・吹出口に入らないような対策をしてください。
- ユニットの脚は必ず簡易基礎に固定してください。

〈据付例〉



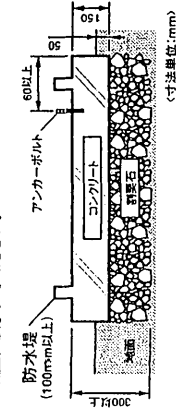
【お願い】

- 市販の基礎ホース(φ16)をドレンニップルに取り付け、ドレンを排水できる位置へ導いてください。

貯湯タンクユニットの据付

基礎工事

- 貯湯タンクユニット落水時の質量に十分耐える基礎工事をしてください。
 - 基礎寸法 900×900mm以上
 - 落水時の質量 約450kg
- 床面は防水・排水工事を行ってください。
- 基礎工事は下図に従って行ってください。
- コンクリート圧縮強度:18MPa(180kg/cm²)以上
- アンカーボルト引き抜き力:9800N(1000kgf)以上
- 屋内に据え付ける場合は、必ず防水堤(高さ100mm以上)を付けてください。



注意

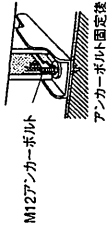
- 床面の防水・排水処理工事を必ず行ってください。(大きな被害の原因)

脚部カバー(別売)取付工事

- 脚部カバーを取付ける場合、貯湯タンクユニット本体を据え付ける前に脚部カバーの支持板を本体に取り付けてください。詳しくは脚部カバーの説明書をご覧ください。

脚部固定工事

- 地震時の転倒防止のため、アンカーボルトを使用して基礎の上に固定します。3箇所必ず固定してください。
- 必ず水平に据え付けてください。

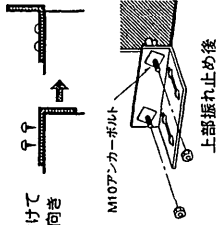


注意

- 貯湯タンクユニットの脚部をアンカーボルトで固定する(けがの原因)

上部振れ止め工事

- ① 貯湯タンクユニットの上面に取り付けてある上部振れ止め金具を外し上向きに取り付けます。
- ② 上部振れ止め金具を壁に固定します。



注意

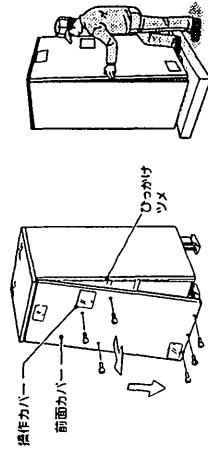
- 2階以上に据付ける場合は、上部振れ止め金具で本体を固定する(けがの原因)

貯湯タンクユニット前面カバーの外し方

- 前面カバーのねじ(6本)を外したあと、前面カバーを上げながら手前に向けて降ろします。(前面カバーの取外し、取付けは右図のように行ってください。)

【お願い】

- 外した前面カバーは傷が付かないよう、風が当たらない安定した場所に正面を上にして横置きしてください。また、操作カバーのつまみが壊れないように注意してください。
- 工事が終わつたあと、前面カバーは元どおりねじ(6本)で確実にしめてください。



【お願い】

- 引張荷重が900N(500kgf)以上に耐える壁または柱を設けてください。
- アンカーボルトは引き抜き力が2450N(250kgf)以上になる施工をしてください。
- アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。

アンカーボルト(上部固定用 形状:GZ-B2)	寸法(mm)		
径	全長	ねじの長さ	埋込深さ
10	60	25	10.5
			35

- 側面に取付ける場合、使用しないねじ穴は雨水が上らないように付属のシールでふさいでください。(シールは上部振れ止め金具に付いています。)

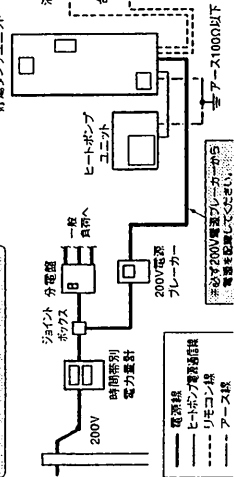
据付工事-2

T0308208C

電気工事

- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、指定工事業者が行ってください。
- ブレーカーの定格および電線の太さは内線規程に定められたものを使用してください。
- 電力契約は必ず「時間別別電灯」としてください。深夜電力契約はできません。
- 必ずアース(接地)工事を万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、電気工事士によるD種(第3種)接地工事(接地抵抗値100Ω以下)を行ってください。

電気系統接続概要図



貯湯タンクユニットへの配線工事

- 電源線(電源→貯湯タンクユニット)をPF管(φ22)に通します。
- ヒートポンプ電源通信線(貯湯タンクユニット→ヒートポンプユニット)をPF管(φ16)に通します。(配線は、最長40mまでです。)
- 各リモコンから貯湯タンクユニットまでのリモコン線(2本)を、PF管(φ16)に通します。
- 電源線(電源→貯湯タンクユニット)を電源ケーブル口から通し、200Vターミナルに接続します。

電源線 絶縁径規格: 3.2~3.6N(m:33~37kgf·cm)

- 【お願い】
- ターミナルへの接続は付属の圧着端子を使用してください。
 - 電源線(VVF型)を使用する場合は、VVF専用のクランプを現地調達して、交換してください。

- ヒートポンプ電源通信線(貯湯タンクユニット→ヒートポンプユニット)を電源ケーブル口から通し、ヒートポンプ用電源通信ターミナルに接続します。

- 【お願い】
- 感電事故防止のため、必ず合わせてください。(黒・黒、白・赤、赤・赤)
 - 皮むき寸法は、右図に示した通りで行い、必ずターミナルの差し込み窓から露出が見えるまで確実に差し込んでください。

- 電源線、ヒートポンプ電源線をケーブル挿入板で固定します。

【お願い】

- 端子部に直接外力が加わらないように確実に固定してください。
- リモコン線2本(台所、浴室リモコン用)をリモコンケーブル口から通し、リモコン接続端子に接続します。

【お願い】

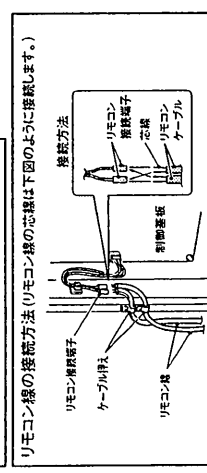
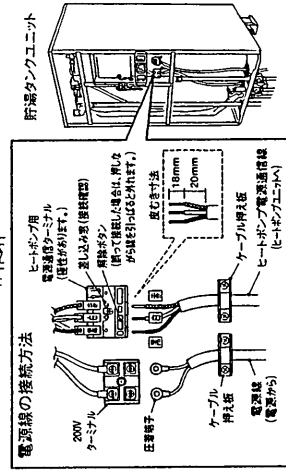
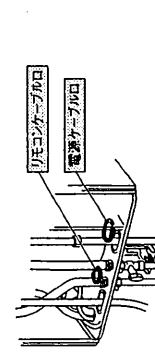
(参考) 接続端子用手動式圧着工具 YNT-2216

警告

- 電源線は確実に取り付ける
- 配線の圧着は右図に示すように行ってください。
 - 端子に露出した部分で正しく圧着してください。
 - 端子の露出部分(長さ)は、3.2~3.6N(m:33~37kgf·cm)とする
 - ヒートポンプ電源通信線は、必ず電線を、電源通信ターミナルに確実に取り付けます。
 - 電源線は、必ず電線を、電源通信ターミナルに確実に取り付けます。
- 貯湯タンクユニット内の漏電防止ヒューターと配線は50mm以上の距離を確保する

必要部材

名称	仕様	備考
電源ケーブル	単相200V・3線	
電源線	5.5mm ² (φ2.0)・VV線	2芯式、電源→貯湯タンクユニット
電源通信線	φ2.0 VVG線	3芯式(絶縁) 最長40m以内
リモコン線	φ2.0mm ² 以上	貯湯タンクユニット→ヒートポンプユニット
PF管	φ22	2芯式、リモコン線用、長さ50mm以内
PF管	φ16	電源線(電源→貯湯タンクユニット)、ヒートポンプ電源通信線用(貯湯タンクユニット→ヒートポンプユニット)
アース線	φ1.6 IV線	電源線用(貯湯タンクユニット→リモコン)



- 【お願い】
- リモコン線2本の挿入は誤動作の原因になりますのでご注意ください。
 - リモコン線は電線と混同して(約5cm)配線してください。
 - 近接した位置にある配線の原因で火災が発生する可能性があります。
 - 電源線は、引き抜いても端子に直接外力がかからないようにケーブル挿入板を確実に取り付けてください。
 - 電源線とリモコン線を同一ケーブルで配線しないようにしてください。
 - リモコンが誤動作する場合があります。
 - リモコン線のリモコン接続端子に接続するときは、200V電源ブレーカーの電源レバーを「切」にしてから接続してください。
 - リモコン線は、本体内部の配線の内面を通してください。

ヒートポンプユニットへの配線工事

- 貯湯タンクユニットからヒートポンプユニットまでのヒートポンプ電源通信線をPF管(φ22)に通します。
- 配管カバー、端子台カバーを取り外し、ヒートポンプ電源通信線をユニット内へ通します。
- クランプでPF管(ヒートポンプ電源通信線)を固定します。

【お願い】

- 端子部に直接外力が加わらないように確実に固定してください。

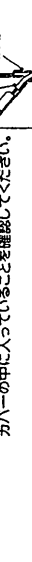
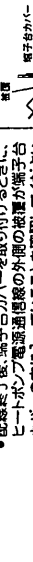
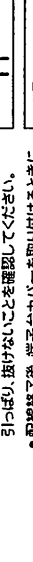
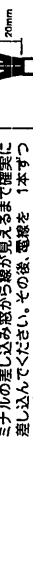
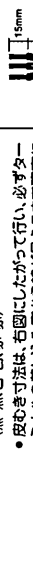
配線の際にPF管が90℃以上の高温にならないように固定してください。

また、水抜きの際に、PF管内に水が入らないように、PF管接続部の位置が給湯側(右側)配管の接続口より上になるように固定してください。

- ヒートポンプ電源通信線をヒートポンプユニットのヒートポンプ用電源通信ターミナルへ接続します。

【お願い】

- 感電事故防止のため、必ず合わせてください。
- 皮むき寸法は、右図に示した通りで行い、必ずターミナルの差し込み窓から露出が見えるまで確実に差し込んでください。
- 配線終了後、端子台カバーを取り付けるときに、ヒートポンプ電源通信線の外部の絶縁が端子台カバーの中に入っていることを確認してください。



アース工事

- 万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、D種接地工事(接地抵抗100Ω以下)を行ってください。
- 水道管、ガス管への接地、および他の機器の接地との共用はできません。
- 避雷針の接地と2m以上離してください。

貯湯タンクユニット

- 貯湯タンクユニット下部の電源ケーブル口から、アース線(市販品)をユニット内へ通し、アース端子(④マーク)へ接続します。

【お願い】

- 丸型端子(市販品)を圧着して接続してください。

絶縁径規格: 0.7~1.3N(m:7~13kgf·cm)

【お願い】

ヒートポンプユニット

- ヒートポンプユニット下部の配線取入口から、アース線をユニット内へ通し、アース端子へ接続します。

【お願い】

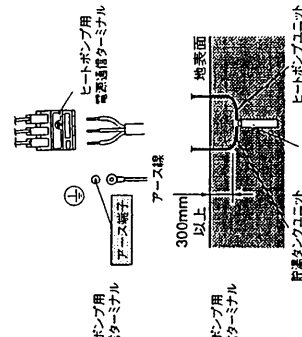
- 丸型端子(市販品)を圧着して接続してください。

絶縁径規格: 0.7~1.3N(m:7~13kgf·cm)

【お願い】

アース線の取り付け

- アース線2本をアース棒に接続します。
- アース棒を地中300mm以上の深さに打込みます。



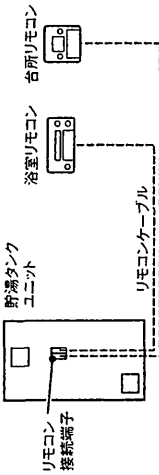
電気工事

T0308211C

リモコン工事

- リモコンは、三菱純正別売部品をご使用ください。別売リモコン以外では、わき上げできません。
- リモコンケーブルは、三菱純正別売部品を設置条件に合わせて切断してご使用ください。
[リモコンケーブル形状: LM-620またはLM-650(2芯、線径: 0.3mm^φ)]
- 本体1台に複数の浴室リモコン及び複数の台所リモコンは接続できません。

リモコン接続概要図



台所リモコン取付工事

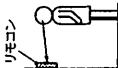
付属品

部品名	数量	部品名	数量
木ねじ	2	Mねじ	2
オールブラグ	2	Y型端子	2
操作説明ラベル	1	工事説明書	1

- 【お願い】
- リモコン本体を分解しないでください。
 - 操作説明ラベルを浴室リモコンの近傍に貼り付けてください。
 - リモコンを直接取付の上や鉄くずのある床の上に置かないでください。スベークーパー部(左)に取付角が付く向き、音が出なくなります。

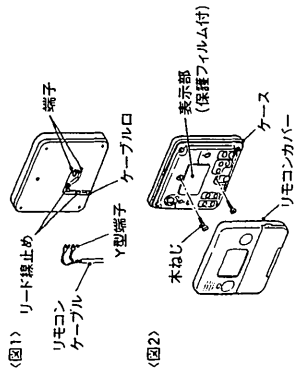
取付場所の選定

- 台所リモコンは必ず扉内に取付けてください。
- 取付位置はスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見取れるようにしてください。
- 台所リモコンは防水タイプではありません。下記の場所には取付しないでください。
 - ガスアプナルなど高温(50℃以上)になるところ
 - 浴室など湿気の多いところ
 - 直射日光のあたる場所
 - 湯気や水しぶきが飛ぶところ
 - 幼児の手が届くところ
- リモコンケーブルの長さが50m以内になる場所としてください。



壁面に取付ける場合(露出配線)

- 下ケースの「ケーブル口」をニツプルなどで切欠く。(図1)
- リモコンケーブルを付属のY型端子に圧着して端子に接続し、リモコンケーブルをリード線止めにて止める。(図1)
- マイナストライバでリモコンカバーをケースからはずす。(図2)
- リモコンケーブルを木ねじ2本で壁に固定する。(図2)
- 壁がコンクリートブロックの場合は、オールブラグ用穴(φ6mm、深さ約30mm、2箇所)をあけオールブラグを打ち込んでから木ねじ2本でリモコンケーブルを固定します。
- 【お願い】リモコンと壁の間にすきまがないように取付けてください。
- 【お願い】リモコンと壁の間にすきまがないように取付けてください。お密さまとご相談の上、必要に応じ表示部の保護フィルムをはずす。
- リモコンカバーをケースにはめ、リモコンケーブルを壁に固定して温水器まで配線する。(図2)



浴室リモコン取付工事

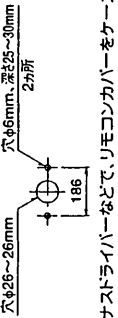
付属品

部品名	数量	部品名	数量
木ねじ	4	パッキン*	1
オールブラグ	2	取付パイプ(太)	1
カバー(パッキン付)	1	取付パイプ(細)	1
操作説明ラベル	1	工事説明書	1

- ※パッキンはリモコンに付いています。仮取付できる場合のみ同梱ラベルに付いています。
- 【お願い】
- リモコン本体を分解しないでください。
 - 操作説明ラベルを浴室リモコンの近傍に貼り付けてください。
 - リモコンを直接取付の上や鉄くずのある床の上に置かないでください。スベークーパー部(左)に取付角が付く向き、音が出なくなります。

コンクリート、タイルなどの壁に取付ける場合(壁貫通)

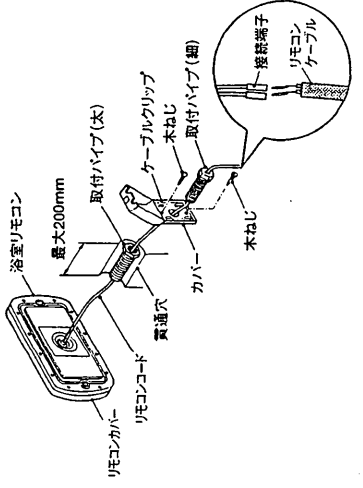
- 壁厚20mmまで取付可能です。
- 壁に貫通穴(φ26~30mm)、オールブラグ用穴(φ6mm、深さ約30mm、2箇所)をあけ、オールブラグを打ち込みます。



- マイナストライバなどで、リモコンカバーをケースからはずす。
- 取付パイプ(太)を壁の厚さに合わせてカットし、リモコンケーブルを通してリモコンにねじ込む。
- 木ねじでリモコンを壁に固定して、リモコンケーブルをカバー、カバーを木ねじ2本で止める。
- 【お願い】リモコンと壁の間にすきまがないように取付けてください。
- リモコンケーブルの芯線を2つ折りして、リモコンケーブル端子に圧着する。

【引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。】
(参考) 日本圧着端子製造株式会社 YHT-2216

- 接続部がカバーの内側になるようにケーブルクリップにリモコンケーブルを着付けてカバーのふたをする。
- お密さまとご相談の上、必要に応じ表示部の保護フィルムをはずす。
- リモコンカバーを取付ける。



取付場所の選定

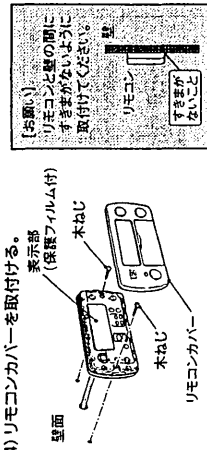
- 取付位置は浴室のスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見取れるようにしてください。
- 浴室リモコンは防水タイプですが、できるだけ湯や水がかかりにくい場所に取付けてください。
- リモコンケーブルの長さが50m以内になる場所としてください。
- カバーは湿気の少ない場所に取付けてください。

ユニットバスに取付ける場合(壁内配線)

- 取付パイプ、カバー、オールブラグは使用しません。
- 室内側からリモコンケーブルを通していただきます。
- 壁にリモコンケーブル用穴(φ10mm)と、リモコン取付用穴(φ6mm)をあけます。
- 壁パネルに取付ける場合、裏側に補強用の木片を取付けます。(木片にリモコンケーブル用穴(φ12mm)とリモコン取付用穴(φ3mm、2箇所)をあけます。)
- 補強用の木片を接着剤などで壁裏面に付けます。
- 木片は現地で作っていただきます。



- マイナストライバなどで、リモコンカバーをケースからはずす。
- リモコンケーブルの芯線を2つ折りして、リモコンケーブル端子に圧着し、必ず、木ねじ2本でリモコンを固定する。
- 【お願い】リモコンと壁の間にすきまがないように取付けてください。お密さまとご相談の上、必要に応じ表示部の保護フィルムをはずす。
- リモコンカバーを取付ける。



リモコン工事

T0308212C